平成２０年度　岡山県立岡山操山高等学校
自己推薦による入学者選抜適性検査Ⅱ（６０分）

「格差」について最近よく語られるようになりました。ここでは，その「格差」に関する以下の問題 1・2 について考えてみましょう。

1 次の英文は，高校生の健(けん)(Ken)さんと由香(ゆか)(Yuka)さんが図書館からの帰りに会話をしている場面のものです。これを読んで，以下の問い（問１～４）に答えなさい。

Ken: Oh, it's already five o'clock. We studied for three hours! I'm a little tired. Can I buy some chocolate at the convenience store over there?

Yuka: Sure. But before you do, think what chocolate is made from.

Ken: Is it a quiz? O.K., I'll try it. I think chocolate is made from cocoa, sugar and milk. Is that right?

Yuka: Not really. ①Chocolate is also made from *African children's *sweat and tears.

Ken: What do you mean by that?

Yuka: I read a book about Africa written by a Japanese *journalist. She wrote a sad story about African children who work on *West Africa's cocoa *farms.

Ken: Please tell me more about the story.

Yuka: O.K., young children are brought from *Mali to work on cocoa farms in *Ghana. They work very hard from morning to night. They don't have *enough sleep or food, and sometimes they become sick. They must work to *support their family. They don't know what chocolate is. They have never seen or eaten it.

Ken: Here Japanese children enjoy chocolate without knowing that.

Yuka: You're right. Usually we study at school for many years, and we think nothing of it. But ②some African children have never studied at school. In the book, the journalist writes about a boy she can never forget. He said to her, "Can I have your old pen? I want to go to school one day. I want to study and get a good job. I want to help my family." This really made me think.

Ken: Is there anything we can do for them?

Yuka: In America there are groups of people who won't buy chocolate made from children's sweat and tears.

Ken: Um...but chocolate will be more *expensive if no children work on cocoa farms. And if children can't work, how do they support their family? I don't think it will *work well.

Yuka: You're right, but we should (　　③　　).

Ken: I understand. As a first step, I want to read that book about African children.

Yuka: I will bring the book to school tomorrow.

Ken: Oh, thank you.

*African　アフリカの　　*sweat and tears　汗と涙　　*journalist　ジャーナリスト
*West　西　　*farm　農場　　*Mali　マリ（アフリカの国）　　*Ghana　ガーナ（アフリカの国）
*enough　十分な　　*support　～を養う　　*expensive（値段が）高い　　*work well　うまくいく

問１　下線部①はどういうことを表していますか。本文に即して日本語で説明しなさい。

問２　下線部②の事実から生じると思われる問題点を英文で書きなさい。

問３　空欄③に入る英語を自由に書きなさい。

問４　二重下線部「Africa」にある国を含む以下の【資料】に基づいて（１）～（３）の問いに答えなさい。

【資料】

次の４つの図は，日本・マリ・ガーナ・アメリカ合衆国・フランスの５か国の国民生活に関する指標を，日本を 100 とする数値に換算して示したものです。図１～４は，それぞれ【選択肢】のア～エのいずれかです。

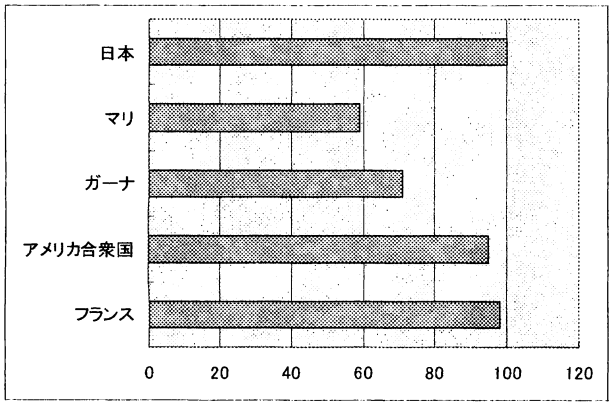

図１

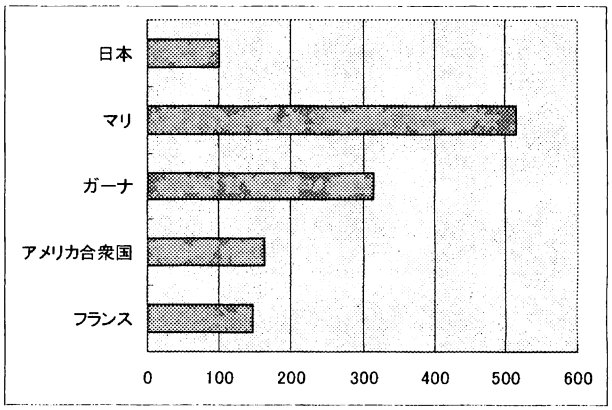

図２

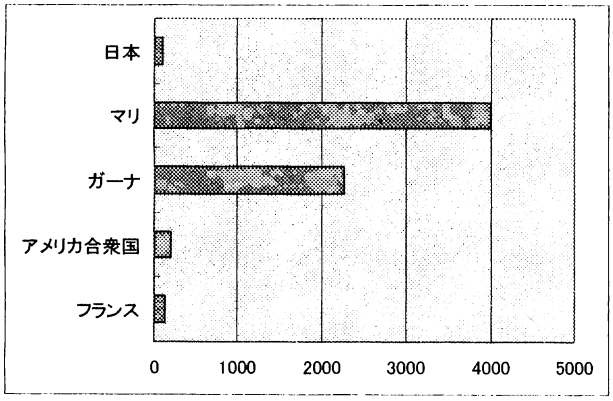

図３

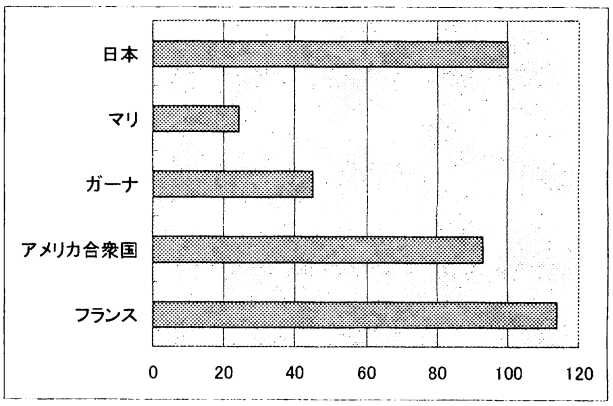

図４

【選択肢】

ア　乳児死亡率（満１歳に達する前に死亡した出生児 1000 人あたりの数）

イ　合計特殊出生率（女性１人が生涯に生むであろう子どもの数）

ウ　平均寿命（男女平均）

エ　中等教育就学率

（中等教育の定義は国によって違いますが，日本は中・高等学校レベルを言います。就学率は年齢にかかわらず実際に就学している者の数を当該就学年齢層の人口で割ったものです。）

（統計年次はすべて 2005 年，『世界国勢図会 2007/08』により作成）

（１）図１～４に当てはまるものを，【選択肢】の中からそれぞれ選んで，ア～エの記号で答えなさい。

（２）上記（１）の解答について，あなたがそのように判断した過程を説明しなさい。

（３）さまざまな指標を調べると，マリやガーナに限らず，多くのアフリカの国々と，日本や欧米諸国の間には，生活に関する大きな格差が存在することがわかります。このような格差が生じたのはなぜですか。アフリカの歴史的な背景に触れながら，あなたの考えを述べなさい。

2 次の文章は，学ぶということに関するものです。これを読んで，以下の問い（**問１，２**）に答えなさい。

もし，小学校一年生の教室で，先生が「では，これからひらがなを勉強しましょう」と言ったときに，子どもたちが「ひらがなの学習に対する内発的な動機づけが私の内部にあるだろうか？」と自問することを許したら，そして，「内発的な動機づけを発見できませんでした」と自己申告した子どもにはひらがなの学習を免じるということを制度化したら，学校はどんなことになるでしょう。

しかし，現に学校はその※ＳＦ的想像のような場所になりつつあります。

「なんのために勉強するのか」「この知識は何の役に立つのか」――。教育改革や子どもたちの学習離れをめぐって，このような問いが頻繁に登場するのも，裏返せば，各人にとっての学習の意味が問われているからであり，意味ある学習が求められているからである。しかし，実のところ，そもそもこうした問いにだれもが納得のいく解答などあるはずがない。（中略）面白い―つまらない，楽しい―苦痛，すぐ役に立つ―役に立ちそうもない。「面白くて役に立ちそうな」授業が求められるのは，性急に各人にとっての意味を求める問いが社会に充満していることの裏返しである。

（苅谷剛彦（かりやたけひこ）『階層化日本と教育危機――不平等再生産から意欲格差社会（インセンティブ・ディバイド）へ』）

僕自身も大学で繰り返し同じ問いを向けられます。「これは何の役に立つんですか？」という問いが，ほんとうに無邪気に，最優先のものとして学生たちの口から発せられる。「何のために勉強するのか？」，「この知識は何の役に立つのか？」。

去年，ある国立大学で集中講義をしたときに，その大学の新聞部の学生からインタビューを受けたことがあります。その学生が発した最初の質問が「現代思想を学ぶことの意味は何ですか？」というものでした。

その問いを発した学生は，もし僕がこの問いに説得力のある回答をしたらそれを学んでもよいが，僕の答えに納得できなければ「学ばない」と宣言しているわけです。つまり，ある学術分野が学ぶに値するか否かの決定権は自分に属しているということを，問いを通じて表明しているのです。僕はこの傲慢（ごうまん）さと無知にほとんど感動しました。

二十歳の学生の手持ちの価値の※度量衡（どりょうこう）をもってしては計量できないものが世の中には無限に存在します。彼は喩（たと）えて言えば，愛用の三十センチの「ものさし」で世の中のすべてのものを測ろうとしている子どもに似ています。その「ものさし」では測れないもの，例えば重さとか光量とか弾力といったことの意味を，「ものさし」しか持たずそれだけで世界のすべてが計量できると信じている子どもに，どうやって教えることができるでしょう。

「何のために勉強するのか？　この知識は何の役に立つのか？」という問いを，教育者もメディアも，批評性のある問いだと思い込んでいます。現に，子どもからそういう問いをいきなりつきつけられると，多くの人は絶句してしまう。教師を絶句させるほど※ラディカルで※クリティカルな問いなんだ，これはある種の知性のあかしなのだと子どもたちは思い込んでいます。そして，あらゆる機会に「それが何の役に立つんですか？」と問いかけ，満足のゆく答えが得られなければ，自信たっぷりに打ち棄（す）ててしまう。しかし，この切れ味のよさそのものが子どもたちの成長を妨げているということは，当（とう）の子どもたち自身には決して自覚されません。

「何の役に立つのか？」という問いを立てる人は，ことの有用無用についてのその人自身の価値観の正しさをすでに自明の前提にしています。有用であると「私」が決定したものは有用であり，無用であると「私」が決定したものは無用である。たしかに歯切れはいい。では，「私」が採用している有用性の判定の正しさは誰が※担保してくれるのでしょうか？

問題はここからいっそう複雑になってゆきます。

この個人的な判定の正しさには実は「※連帯保証人」がいるのです。

「未来の私」です。

「私」に自己決定権があるのは，自己決定した結果どのような不利なことが我が身にふりかかっても，その責任は自己責任として，自分が引き受けると「私」が宣言しているからです。

（内田樹（うちだたつる）『下流志向　学ばない子どもたち　働かない若者たち』による）

※ＳＦ…サイエンス・フィクションの略。空想科学小説。
※度量衡…長さ・体積・質量，またはそれを測るもの。
※ラディカル…根本的。
※クリティカル…批判的。
※担保…将来生ずるかもしれない不利益に備えてその補いとなるもの。
※連帯保証人…物事に対して当事者と同等の責任を帯びる人のこと。

問１　下線部の「愛用の三十センチの『ものさし』」とは，どのようなものをたとえていますか。わかりやすく説明しなさい。

問２　筆者である内田樹さんの考えに賛成するかどうかの態度を明らかにした上で，「学ぶ」ということについて，あなたの考えを述べなさい。